

ポスター・賞状

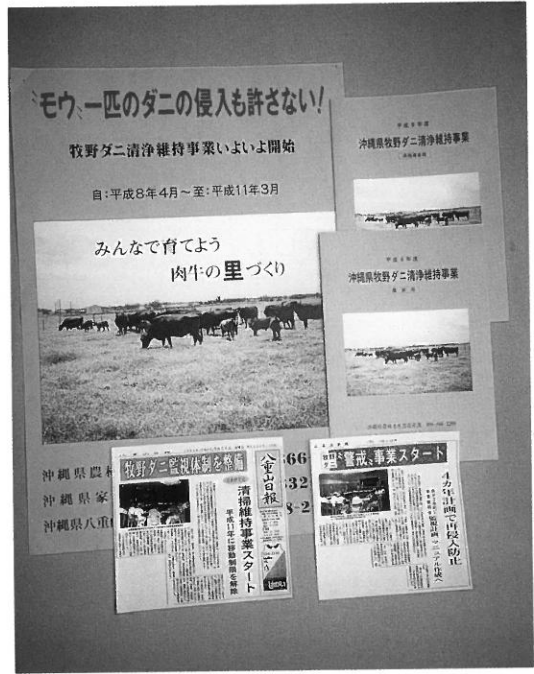
1頭もれなく ＝ダニ撲滅のために＝



あなたの牛のダニ駆除日は

第1回 平成4年10月12日月	第9回 平成5年5月10日月
第2回 平成4年11月2日月	第10回 平成5年6月7日月
第3回 平成4年11月24日火	第11回 平成5年7月5日月
第4回 平成4年12月14日月	第12回 平成5年8月9日月
第5回 平成5年1月11日月	第13回 平成5年9月6日月
第6回 平成5年2月8日月	第14回 平成5年10月12日火
第7回 平成5年3月8日月	第15回 平成5年11月8日月
第8回 平成5年4月12日月	第16回 平成5年12月6日月

■ 沖縄県農林水産部畜産課 ☎098-866-2269
 ■ 沖縄県八重山家畜保健衛生所 ☎09808-2-2041
 ■ 石垣市役所畜産課 ☎09808-2-9911
 ■ 石垣農協 ☎09808-2-2005
 ■ 大浜農協 ☎09808-3-2577



「もう一匹のダニの侵入も許さない！」
 牧野ダニ清浄維持事業いよいよ開始
 自：平成8年4月～至：平成11年3月

みんなで育てよう
 肉牛の里づくり

沖縄県農林水産部畜産課
 沖縄県八重山家畜保健衛生所

<ダニ駆除通知>

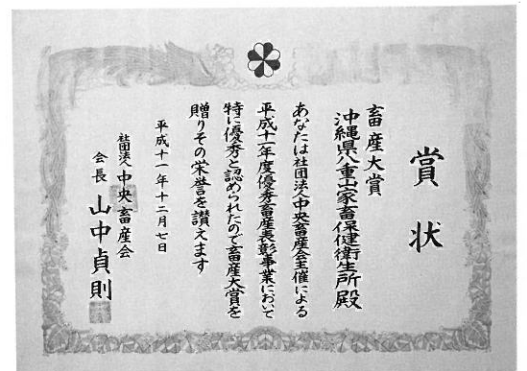
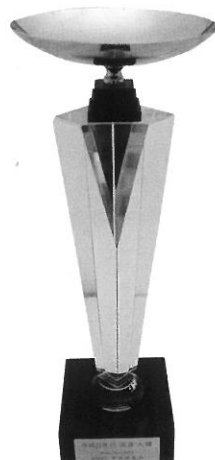
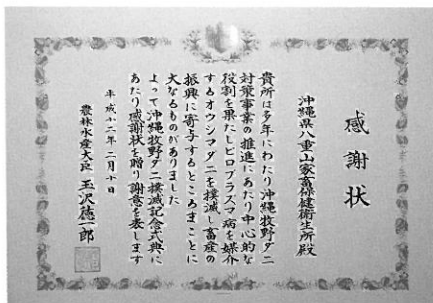
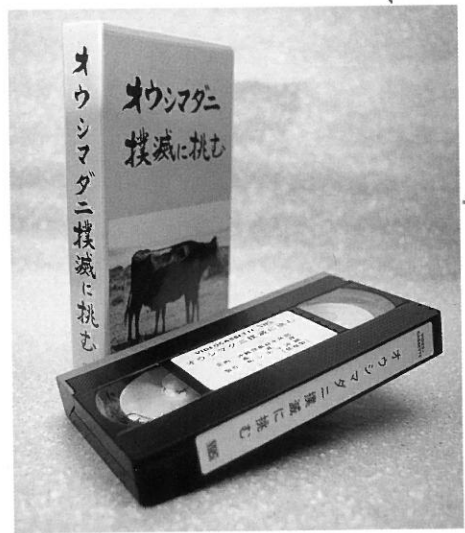
あなたのダニ駆除日は

平成5年3月	日()	
4月	日()	◆首札や耳標を
5月	日()	はっきりとつけること!!
6月	日()	
7月	日()	◆バイチコールは
8月	日()	前日に受け取ること!!
9月	日()	
10月	日()	◆決められた
11月	日()	その日に実施すること!!
12月	日()	

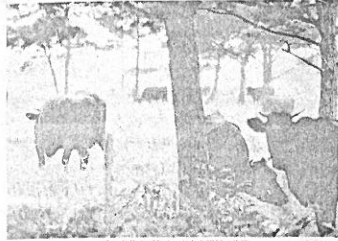
＝ダニ撲滅のために＝

石垣市役所畜産課 ☎2-9911
 県八重山家畜保健衛生所 ☎2-2041

伝言＝



牛の伝染病が発生



多良間村の牧場

牛に伝染病が発生した多良間村の牧場

多良間村の牧場、由緒長いが、伝染病が発生し、牛が死亡した。...

親牛16頭、子牛1頭が死亡 伝染病「ダニが原因、駆除を徹底に」

多良間村の牧場、由緒長いが、伝染病が発生し、牛が死亡した。...

伝染病の発生は、伝染病の発生、牛が死亡した。...

子牛60頭 薬浴後に死ぬ

県農水部原因究明を急ぐ

この四月から七月にかけて、池田町に飼育されている殺菌剤「ダニ」の伝染病発生、牛が死亡した。...

牛タニ撲滅 評価される関係者の努力

牛の伝染病である「ダニ」の撲滅は、世界的にも例がない。...

「出荷自由化」に期待



牛1頭ずつに薬剤をかけ、オウシマダニを駆除する八重山の畜産業者や関係機関

検査もう要らない セリ価格反発に条件整う

検査もう要らない セリ価格反発に条件整う

八重山毎日新聞 36/47

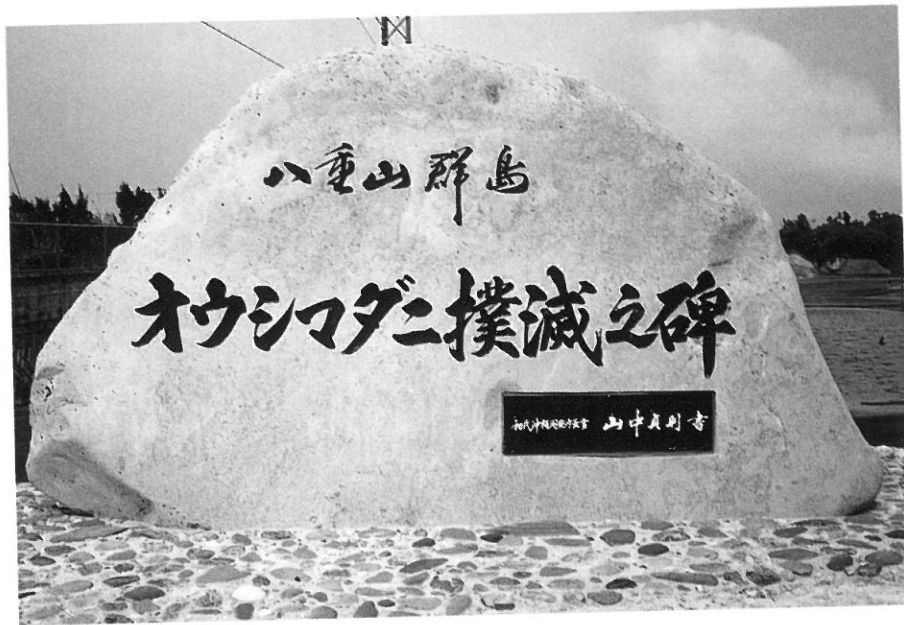
牧野ダニ 石垣島も根絶メドつく



牧野ダニ撲滅に絶大な功績を築いたバイコロールブアオン液

八重山畜産保健衛生所 昨年10月から発見ゼロ

記念碑



与那国島における記念碑



除幕式

記念式典・祝賀会



オウシマダニ撲滅事業経過報告

(オウシマダニ撲滅記念式典あいさつ)



沖縄県農林水産部長

小那覇 安優

オウシマダニ撲滅記念式典にあたり、オウシマダニ撲滅事業の経過につきましてご報告申し上げます。オウシマダニは、言い伝えによりますと明治時代にはすでに沖縄県に棲息したと考えられますが、昭和6年に沖縄本島国頭郡、宮古群島でバベシア病の大発生があり、このときオウシマダニがはじめて確認されました。

その後、八重山地域では昭和9年、昭和13年から14年、昭和28年から29年の3回の大発生がありましたが、効果的なダニ駆除等の対策は実施されていませんでした。

終戦後は、琉球政府補助で初めてDDT、 γ -BHC製剤の薬剤を用いたダニ駆除が始まり、昭和29年に、八重山群島で暗中模索の中、14基の薬浴槽が設置され、昭和34年には専属技術員の派遣、昭和36年には各市町村に畜産指導員が配置されさらに、昭和40年から45年にはFAO推奨の設計図に基いた、高等弁務官資金補助による薬浴槽が19基設置されました。

その間、試行錯誤の中、オウシマダニの生態が解明されると共に、牧野環境の改善がされ、オウシマダニの撲滅には確固とした体制づくりが必要であるという基本理念になり、その後の国庫補助事業の大きな原動力となりました。

日本復帰を目前にした昭和46年からは、国の特段のご配慮により石垣島で沖縄牧野ダニ駆除促進事業がスタートし、有機燐系殺ダニ剤を用いた、地域ぐるみの14日間隔のダニ駆除を実施し、ヘリコプターにより微粒殺ダニ剤を牧野に散布し草地ダニを駆除する本格的なダニ駆除事業が開始されました。

その後、事業の実施範囲が拡大され、昭和49年からは石垣島では地方競馬全国協会補助のもとに、竹富町、与那国町では全額国庫補助のもとに昭和51年まで継続実施されました。昭和52年にはダニの生息数が減少し、1宿主性のオウシマダニ駆除は、牛体ダニ駆除の徹底により、草地ダニ対策は必要ないとの判断から、ヘリコプターによる殺ダニ剤散布は中止されました。

また昭和52年には、バベシア病の他地域へのまん延を防止するため沖縄県告示により八重山地域からの移出牛にダニが寄生していない旨の証明書が必要になりました。

さらに昭和56年には、名称が沖縄牧野ダニ清浄化対策事業に変更され、実施範囲も沖縄本島及び周辺離島、宮古群島にも拡大されました。

その結果、沖縄本島及び周辺離島並びに宮古群島のほとんどの地域でオウシマダニは確認されなくなってきました。

しかし八重山群島においては、他地域と違って、放牧・繋牧が多くその規模も大きいことから、ダニ駆除が完全に行われていない牧野があり、さらに原野で繋牧されている多数の牛、脱柵する牛、人間の入り込めない雑灌林にいる牛がいたことから、全頭ダニ駆除実施は困難を極め、依然としてオウシマダニが棲息している状態にありました。

このような状況で、ダニ駆除事業の方策そのものが問われはじめましたが、最終目標であるオウシマダニの撲滅に向けて、ダニの生理生態に関する知見の再検討を行い、ダニ撲滅に対する理論構成も進められていきました。

これは、八重山地域でオウシマダニが撲滅されない理由は、その対象とする範囲が広すぎるため、十分なダニ駆除指導ができず、薬浴もれの牛がでることに起因する事を指摘したものであります。

これを踏まえて、昭和58年に八重山地域と同様の放牧形態である宮古群島の多良間島でバベシア病の大発生があったことから、昭和59年から多良間島で重点的ダニ駆除指導が実施され「一頭もれなく」ダニ駆除実施を完遂した結果、2年後の昭和60年にはオウシマダニは全く確認されなくなりました。

多良間島のオウシマダニ清浄化の達成は、その後の事業で1部地域を重点的指導地域として推進する方向へ発展していきました。

昭和60年には八重山群島で初めて黒島が重点的指導地域となり、1頭のもれもないダニ駆除が島民一丸となって推進されましたが、薬剤抵抗性ダニが出現し、同時に使用濃度を高くすることにより牛が中毒症状を呈し死亡する事例があり困難を極めることとなりました。

これらの経緯から、平成元年からは黒島でフルメトリン製剤を用いたプアオン法によるダニ駆除が実施され、黒島は平成2年に撲滅を達成しました。

平成3年には沖縄牧野ダニ撲滅対策事業となり、八重山群島の各島を年毎に重点的にダニ駆除を推進した結果、平成3年に竹富島、鳩間島。平成4年には小浜島、波照間島。平成5年に与那国島。平成6年に西表島。平成8年に石垣島でオウシマダニの撲滅が達成されました。また、西表島の内・外離島では、野生化した牛が存在し、オウシマダニが棲息していたため、平成8年に県が牛を買い上げ、全頭を捕獲処分し、休牧によるオウシマダニの自然消滅を図り、平成9年にはオウシマダニは確認されなくなりました。

これ以降は、八重山群島でオウシマダニは確認されておらず、平成5年以降は血液原虫検査でバベシア原虫も見られなくなり、平成5年4月以降バベシア病の発症も見られなくなりました。

これら清浄状態を証明し、悲願である八重山地域からの牛の移動制限を解除するため、平成8年度から沖縄牧野ダニ清浄維持対策事業が始まり、血液原虫検査、抗体検査、牛体ダニ、草地ダニ検査を実施し、データの蓄積を図った結果、平成11年4月に国の家畜防疫対策要綱の改正に伴い、八重山地域からの牛の移動制限を行っていた県告示を廃止したため、ついに八重山地域からの牛の移動制限が解除されました。

オウシマダニの駆除事業は、琉球政府時代から46年間、また国庫補助事業で昭和46年から28年間もの年数を費やし、国庫補助事業で13億7千万円もの巨費が費やされ達成されました。

オウシマダニの撲滅は、世界的に見ても米国での達成以来のすばらしい成果であり、ウリミバエ根絶と併せて世界に誇れる偉業であります。

今後は、他地域からのオウシマダニの侵入を未然に防止するため、侵入防止対策に万全を期することが大きな課題であります。

結びになりますが、これまで多大なご援助と御指導を賜りました国をはじめ、献身的な御尽力を頂きました畜産農家の皆様、関係機関の各位に心から感謝申し上げますと共に、八重山地域の今後の発展とご臨席の皆様の益々のご健勝を祈念いたしまして経過報告といたします。

平成12年2月10日